

伝 若八幡秋季大祭で初めての獅子舞奉納
伝統に刻まれた新たな1ページ

10月10日・11日、赤池地区で行われた「若八幡秋季大祭」2日目に地元の若手有志が獅子舞を奉納しました。獅子舞はみこしと旗行列が御旅所から神社に帰る「お上り」出発前に披露され、神事が一層神聖な雰囲気。「赤池町第9区会」早川和文区長が「続けることが伝統につながるので、来年もぜひ奉納してほしい」と若手の活躍に期待を込めていました。



↑ 悪魔をはらうと言われている獅子舞。髪を振り乱しながら豪快に舞いました。

↑ 「もうすぐ頂上」児童たちの声援を受けながら、最後の難関を越えるメンバー。



あ ボランティアグループ「こころ」が遠足をサポート
あっくんに山頂の景色をプレゼント

10月16日市場小6年の遠足で、ボランティアグループ「こころ」が脳性まひによる肢体不自由児の浦田阿羅く（赤池）を福智山頂まで運びました。約40名の浦田くんを交互に背負いながら登ったメンバー7人は「かなり大変だったけどあっくんや同級生が喜んでくれたので力をもらった。帰りもしっかり送り届けたい」と充実した笑顔を浮かべていました。

↑ 初日に名護屋城博物館を見学し、韓国と九州とのつながりを学習しました。



挑 福智町ジュニアリーダー交流会
挑戦や体験を通じてたくましく成長

福智町子育連主催の「ジュニアリーダー交流会」が9月26日・27日に開催されました。参加した小学5～6年生30人が、佐賀県波戸岬少年自然の家で野外炊飯に挑戦。そして海では1本のオールを2人で漕ぐ「カッター」を体験しました。最初は慣れない海面に戸惑っていましたが、終盤は息も掛け声も合うようになり、勢いよく船を進めていました。

↑ 鉄道模型がリアルに作られた駅舎やホームを通過するたびに、子どもたちから歓声が上がりました。



節 へいちくフェスタ in かなだ
節目の年に過去最高の来場

10月4日、金田駅の車両基地広場で「へいちくフェスタ」が開かれました。平成元年10月の平成筑豊鉄道開業を祝って毎年10月に行うイベントは今年で7回目。この日は好天に恵まれ、過去最高の3千人が来場しました。会場ではステージでのライブや鉄道グッズの販売、チョコレートをつかみ取りやミニ列車の運行などが行われたほか、列車で来場した先着500人に開業20周年を祝った紅白もちがプレゼントされました。また、当日は100円列車が終日運行で、列車もホームも活気に満ちた一日でした。

35 赤池ジュニアベアーズ創立35周年記念大会
35チームが集った記念の大会で準優勝

「赤池ジュニアベアーズ」の創立35周年を記念した少年野球大会が、9月6日から10月19日まで町内各地の球場で開かれました。「伸び伸びプレー」がチームスローガンのベアーズは、保護者らの熱い声援を受けながら決勝まで進出。金田ジュニアクラブとの決勝戦は0-5と惜しくも敗れましたが、最終回に見せ場を作るなど記念の大会を最後まで盛り上げました。



↑ 福智町チーム同士の対決となった決勝の舞台は、赤池球場（10月19日）

う 石谷さんが国体バスケットボールに出場
うちのコーチは福岡県代表

福岡県1位のクラブチームで活躍している石谷佳さん（伊方）が、10月2日から新潟市で開かれた国民体育大会バスケットボール競技に県代表として出場。父親の石谷敏行さんが監督を勤める地域のチームで小中学生にコーチもしている佳さんは「後輩たちも自分に続いてほしい。目標を持って練習に取り組みればきっとできるはず」と自らも楽しんでほしい。目標を持って練習に取り組みればきっとできるはず」と自らも楽しんでほしい。目標を持って練習に取り組みればきっとできるはず」と自らも楽しんでほしい。



←「職場の理解と後押しのおかげで思いっきりプレーができた」とほほ笑む石谷さん。

↑ この日の主役は子どもたち。子ども山笠を誇らしげに胸を張って運行しました。



地 赤池子ども山笠が運行
地域を越え子どもや若手が集合

小さくてもしっかり作り込まれた山笠が10月10日・11日に赤池・上野地区を回り、各地で声援を受けました。2年に1度開かれている「赤池統一秋祭り」ですが「これらを担う子どもたちのために、毎年山笠を運行したい」と声が上がって、若手を中心とした有志が子ども山笠を建立。町内各地から約40人が参加し、毎年運行への一歩を踏み出しました。